



おおとみ

発行 山武市立大富小学校
住所 山武市新泉ト60
発行日 令和4年10月3日(月)
文責 教頭 椎名 慶久

学校教育目標 『国際社会にたくましく生きる 大富っ子の育成』

『〇〇の秋』のはじまり

10月「神無月」になり、爽やかな日々が続き、木々の葉の色など、秋の気配を感じる季節となってきました。

さて、日本では、この季節を「〇〇の秋」とよく表現しています。みなさんは、どのような言葉を入れますか。

ここでは『読書の秋』とします。夜が長くなり、家で過ごす時間も長くなると思います。そのような時、本屋さん・図書館で探した自分の好きな本を読むのはどうでしょうか。

読書は、「読む、書く、話す、聞く」力を育て、コミュニケーション能力を高めます。また、想像力を高め、創造力を養い、自ら学ぶ力をつけることができます。学校では朝の読書の時間を中心に読書活動を推進しています。御家庭でもこのような機会に、お子様に読書を進めてはいかがでしょうか。

学校と家庭が連携して子どもが読書に親しむことができる環境づくりを進めていきましょう。



『5年宿泊体験学習』



5年生は、9月15日(木)16日(金)の2日間、東金青少年自然の家で、宿泊体験学習を実施しました。

天候にも恵まれ、19名全員参加で、「チームワークを深めよう。絆を結ぼう。」のスローガンのもと、チームワーク良く活動し、楽しく、思い出に残る行事となりました。

特に、キャンドルファイヤーでは、「学習」「友情」「健康」「勇気」の4つの火を灯していくことを誓い、厳かな雰囲気を感じました。また、レクでは、子どもたちのアイデアが生かされた楽しい歌や劇などが披露され大変盛り上がりしました。そして、ウォークラリーでは、知らない道を地図一つで、班員と協力しながら歩き、チームワークが深まりました。

この宿泊体験学習で経験したことを、日常の学校生活でも生かし、19人の絆がさらに結ばれていくよう支援していきたいと考えています。



さて、「あいさつ(挨拶)」にはとても重要な意味があります。「あいさつ(挨拶)」の「あい」には、心を開くという意味、「さつ」には、その心に近寄る・近づくという意味があります。

つまり「あいさつ」とは、自分の心を開くとともに相手の心を開かせ、その心に近寄っていくことになります。

「あいさつ」は、人間関係をスタートさせるための大切な言葉なのです。

そこで、不易である「あいさつ」を「相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めて」行う子どもをこれからも育てていきたいと思っています。

『手紙の書き方体験授業』

9月21日(水)、4年生を対象に、手紙(はがき)の書き方の体験授業を実施しました。

講師として、郵便局の方々5名が来校し、手紙(はがき)の書き方について、丁寧に指導してくれました。子どもたちは、真剣にはがきを書いていました。最後に、「ポストマ」が登場し、消しゴム印などのプレゼントをもらい、うれしそうにしていました。



『あいさつを大切に』

毎朝、児童会役員は、校門前で、あいさつ運動を展開しています。

その運動のおかげもあり、「元気のよいあいさつ」が学校の中に響き渡っています。



児童の活躍

◇山武郡市小中学校科学作品展

金賞	5年	鈴木 蒔生	「セミの研究」
銀賞	1年	宇津木星波	「マグネット☆バレリーナ」
	3年	鈴木 実紘	「フルーツ集めゲーム」
	5年	川嶋 航瑠	「緑の輝き」
銅賞	2年	鈴木穂乃花	「うごく手」
	4年	土屋 美月	「ビーダマ エレベーター」
	6年	平塚 巧実	「オジギソウと光の関係」

